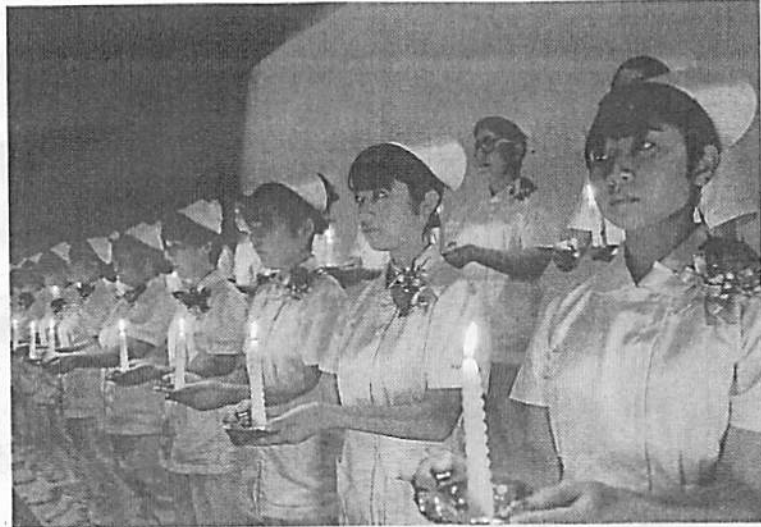


相生 新たに決意への道へ看護



市専門学校1年36人が戴帽式

相生市看護専門学校で戴帽式がこのほど、同市相生6の市文化会館なぎさホールで開かれた。この春入学

した1年生36人がナースキヤップを授かり、看護師へ

厳かな雰囲気の中で執り行われた相生市看護専門学校戴帽式。なぎさホール

の一步を踏み出した。

明かりが落とされた会場で、学生が1人ずつ壇上に歩み出て片膝をつき、教員から真新しいキヤップを着けられた。続いて、ナイチン

ゲル像にともされた火を手元のろうそくに移し、整列した。新型コロナウイルス感染防止のため、事前に録音した「ナイチンゲール誓詞」が流され、学生は心構えを新たにした。

半田齊校長が「ナイチン

ゲルから引き継いだ看護の心をいつまでも大切に。

今日が本当の入学式でもある」とあいさつ。学生代表の八張真由子さん(38)は

「コロナ感染拡大の中、私たちにできることは責任ある行動を考えること。謙虚に学び続けたい」と力を込めた。

ナースキヤップは医療現場でかぶる機会が減っているが、嶋田明日香さん(19)は「かぶったことがなかった分、重みを感じた。患者に寄り添う看護師になりたい」と話した。

(伊藤大介)

11月11日(日) 神戸新聞分

今や、衛生上、機能上 現場では見かけないが、すべてが理屈で通してしまえばつまらない。

「重み」 いつまでも忘れないでほしいものですね。